

学校保健委員会報告

学校保健委員会とは、学校・保護者・学校医等で児童生徒の健康安全に関する課題や学校保健に関する諸問題を協議し、児童生徒・保護者の方、並びに教職員の健康への意識向上と保持増進を図る目的で毎年開催しています。

しかし今年度は、新型コロナウイルス感染症の関係で書面による開催となりました。今回の委員会では「児童生徒の健康」「医療的ケア」「コロナ禍における本校の取組」について協議いたしました。

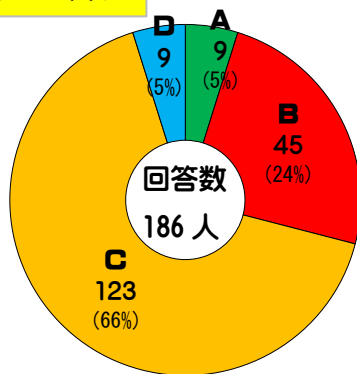
また、事前に保護者から新型コロナウイルス感染症対策のアンケート調査や学校でのマスク着用状況を資料にまとめ、学校医の先生方や保護者代表の学校保健委員からの御指導・御助言をいただきましたので、御報告させていただきます。今後の学校運営に生かしてまいります。

＜本校における新型コロナ感染症対策に関する保護者アンケートまとめ＞

A：非常に心配である B：やや心配である C：あまり心配ではない D：全く心配ではない

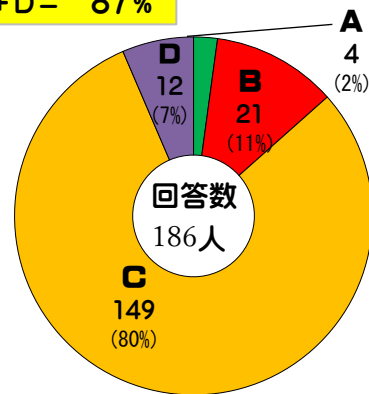
◇密閉・密集・密接

A+B= 29%
C+D= 71%



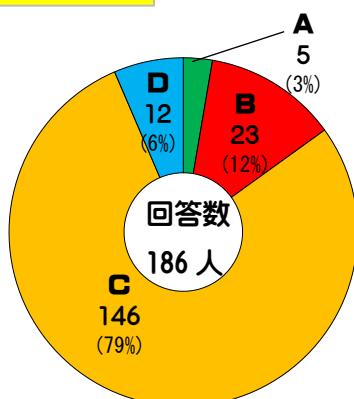
◇教室・校内環境

A+B= 13%
C+D= 87%



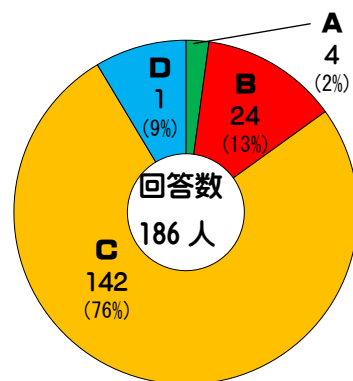
◇教材の共有

A+B= 15%
C+D= 85%



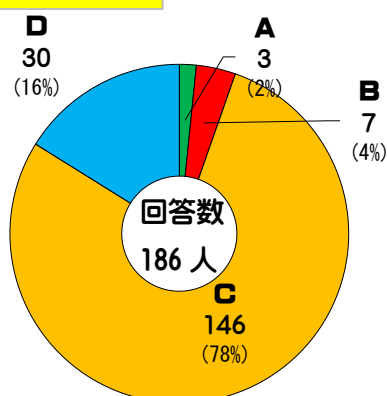
◇学習活動

A+B= 15%
C+D= 85%



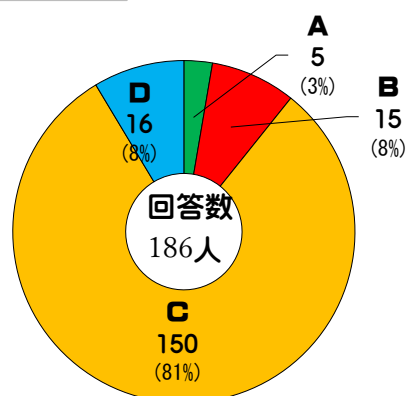
◇体調確認

A+B= 6%
C+D= 94%



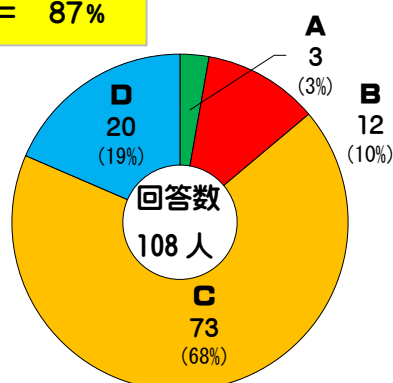
◇給食

A+B= 11%
C+D= 89%



◇部活動

A+B= 13%
C+D= 87%



[アンケートの分析]

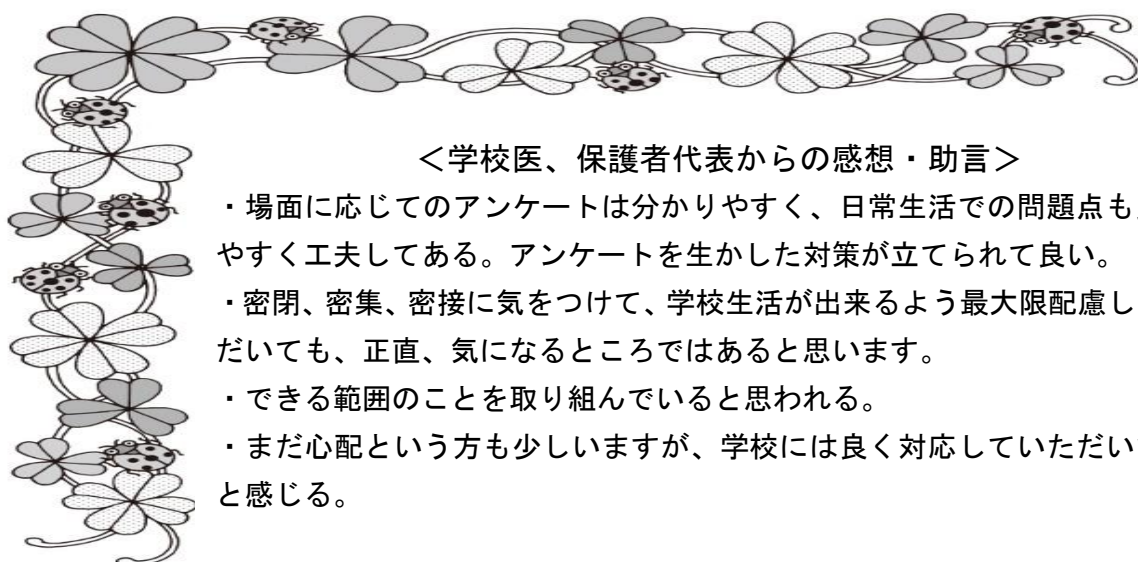
7項目

(◇密閉・密集・密接 ◇教室・校内環境 ◇教材の共有
◇学習活動 ◇体調確認 ◇給食 ◇部活動)のうち、
◇密閉・密集・密接以外は、
A+B「心配である」(1割～2割)
C+D「心配ではない」(8割～9割)という結果がでた。

唯一「心配である」が(約3割)となったのは ◇密閉・密集・密接であった。

「具体的にどのようなところが心配か」という質問の中で、一番多かったのが、「マスク着用について」であり、
◇密閉・密集・密接以外の項目からも、でてきたキーワードが「マスク」であった。

そこで、教員にアンケートを行い、児童生徒の学校でのマスクの着用率について調査した。その結果が次ページのとおりである。

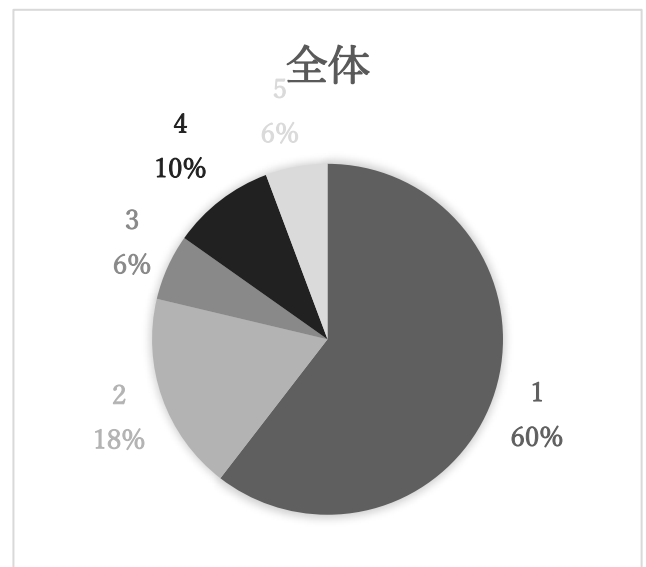
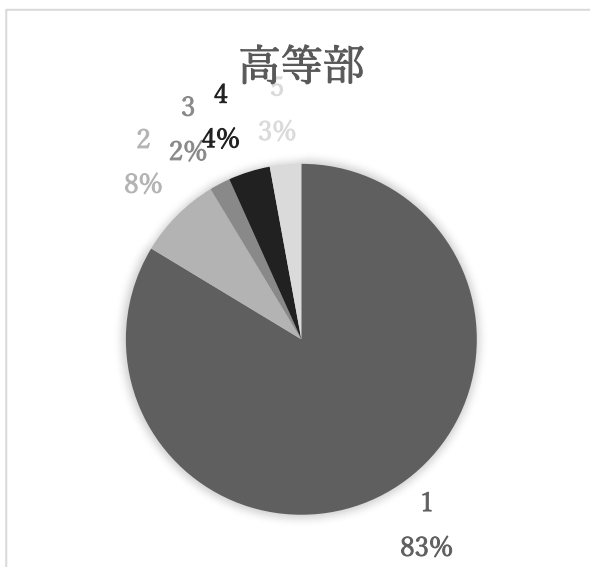
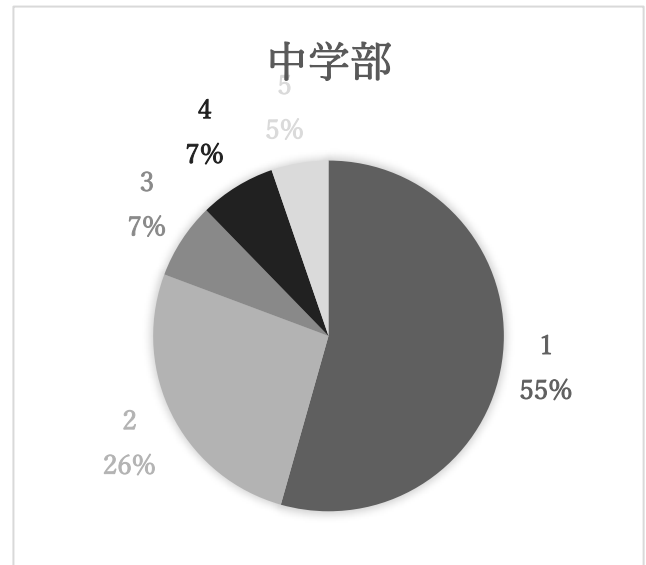
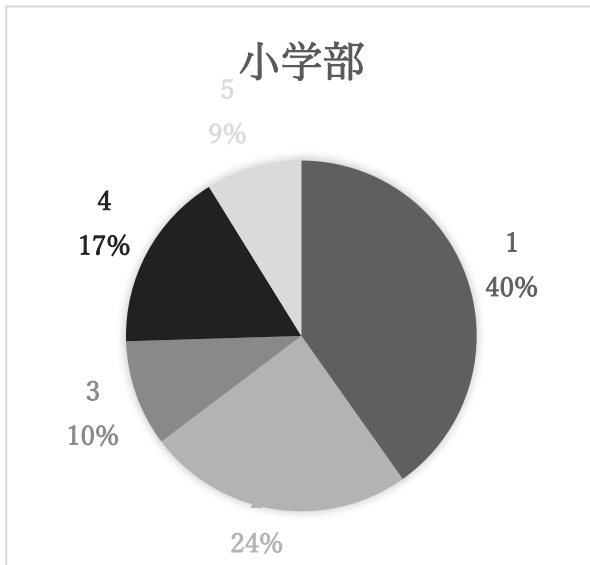


<学校医、保護者代表からの感想・助言>

- ・ 場面に応じてのアンケートは分かりやすく、日常生活での問題点も見つけやすく工夫してある。アンケートを生かした対策が立てられて良い。
- ・ 密閉、密集、密接に気をつけて、学校生活が出来るよう最大限配慮していただいても、正直、気になるころではあると思います。
- ・ できる範囲のことを取り組んでいると思われる。
- ・ まだ心配という方も少しいますが、学校には良く対応していただいていると感じる。

＜マスク着用について教員アンケートまとめ＞

1:正しくつけられている 2:あごマスク 3:鼻マスク 4:噛んでいる等 5:つけられない



[マスク着用アンケート結果]

●正しくつけられている児童生徒 (学部ごとのグラフから)

小学部 40%

中学部 55%

高等部 83%

※学年が上がるに従い、身についていくことがわかる。

●全体のグラフから

1=マスクをつけることができています。60%

2=「鼻マスク」: 鼻が時々出てしまうが、つけられている。18%

3=噛んだり、よだれでびしょびしょになる等するが、つけられている。10%

4=「あごマスク」: あごまでマスクが下がっている時もあるが、つけられている。6%

5=まったくつけられない。5%

※課題はあるが、マスクをつけることができています児童生徒は95%ということがわかった。



アンケート結果の課題を受け、児童生徒に対して、試みている配慮や工夫、指導についての質問では、下記の実践があがった。

（実践例が多い順に表記）

- ①正しい位置に戻せるように、言葉掛けを行う。
- ②マスクを適宜交換（よだれなどで効果的でない判断した時）
- ③短時間でもつけられるように指導する。（場面に応じて着用を促す等）
- ④落ちないようにゴムで留めたり、髪の毛と一緒に留めたりしている。
- ⑤マスクの内側にティッシュやハンカチを挟む。（よだれ対策）
- ⑥マスクのサイズを子どもに合わせる。
- ⑦マスクをする時は口を閉じるように指導。（「ん」という合い言葉で口を閉じる練習）
- ⑧慣れるために常に首にマスクをつける。（過敏がある生徒）



<学校医、保護者代表からの感想・助言>

・マスク着用の日常生活が必須になっている状況で、お子さんによってはマスク着用在ストレスだったり他の理由も様々でしょうが、頑張ってこの状況に適用すべく対応できるように頑張っていることが分かりました。

・鼻マスク、あごマスクはマスクの効果が無いが小中学生ではこの数字が限界かもしれない。

・様々な身体能力の異なった子どもへの指導には頭が下がります。特に嚙んだりよだれの出る子どもへの対応は体当たりの仕事と思われ想像以上でした。コロナ禍の学校生活も長期になり子どもたちも習慣付いたのではないのでしょうか。

・学年が上がるにつれてきちんとマスク着用出来る子が増えているのは、子どもたちの成長と共に先生方のご指導のおかげと感謝しています。（もちろん御家庭での指導もあると思います！）

・良く出来ている方だと思います。

・マスクの徹底は重要事項の一つです。マスクのつけ方、外し方、正しい捨て方など忘れる前に何度も復習しましょう。

・・・まとめ・・・

今回、「本校の新型コロナウイルス感染症対策について」のアンケートを実施したことで、保護者の心配や不安が、どんなことなのかを知ることができました。今後、学校における取り組みをどのようにしたら良いかを考える機会にもなりました。また今回、保護者から意見を聞く中で、学校や教員への感謝の言葉もあり、これからの糧とし今後の児童生徒の指導に生かしていきたいと思えます。ありがとうございました。